
主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

ジュラルミンダンボール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

【ΖΖコード】

Ζ9Ζ35Ζ

【作者名】

ジユラルミンダンボール

【あらすじ】

ジユラルミンダンボール は とちくわった ！！

(前書き)

ウチの主役三人組にちょっと集まって喋つて貰いました。想像以上のグダグダ感と、想像以上の短さです。議題は、『今年の反省と来年の抱負』です。ちなみに、色々とメツタメタなので、色々とご注意です。

ちなみに、今回はこれまでとは全く違う形式です。

ライア「さて、今年の反省と来年の抱負を語りつか。んじゃ、まずはアタシから。」

リア「あらあら～、ライアちゃんてばせつかちわんなのね～。」

祐「それで、何なんですか？　いや、この命令自体そもそもが一体何だつて言つんですか？」

ライア「あれれ～？　祐ちゃんには言つてなかつたっけ～？」

祐「ええ。空間の裂け目から突然現れた触手に拉致されて、至る現在ですでの。」

リア「あらあら～。」

祐「あらあら～、じゃ無くて・・・ともかく！　何なんですか？！このコタツとミカンとブラウン管テレビとホワイトボードとホットカーペットの配置された六畳間はーーー！」

ライア「ん？　ジユラダンくんのお家だけど？」

祐「え？」

リア「あら～？」

ライア「うふ、冗談。」

祐「話をじじりせないでくださいよ。それで、じじは一体?」

ライア「ん~、メンドクサイから簡単に説明すると、メタ空間つてヤツかな。」

リア「だからじじでの出来事は本編には一切合切関係無くいれるから~。ゆつくりしてこってね~?」

祐「あ、そうなんですか。それにしてもメタ空間つて。。。もつとマトモなネーミングを・・・。」

ライア「それじゃ~ 今年の反省と来年の抱負を語りつ。」

祐「ちよ~? 軽く流さないでくださいよ。」

リア「あらあら~。」

ライア「まずアタシの今年の反省~。ジユラダンくん、とつとと続き書け! 来年の抱負は、ジユラダンくん、とつとと続き書けって事で!」

祐「いや、それじゃ反省にも抱負にもなっていな~ような・・・」

リア「それどころかジユラルミンダンボール君はこれから完全オリジナルの話を書こうとしてるらしいから~、ライアさんの所は更に続きが書かれなくなるかもしれないわね~。」

ライア「ウソ!~え、ちょ、それ何処情報!~ソース寄越せソース

「...」

リア「リリイさんとニシフルちゃんが言つてたので、多分間違い無いと思いますよ~？」

ライア「うわおん・・・」

祐「次はどうちが言います？」

リア「祐ちゃんからどうぞ~？」

祐「それじゃ、私が。え~、今年はレベル5になつたり両手両脚がジユースになつて無くなつたりとか色々ありましたが、正直、レベル5らしい事をほぼしていないので、来年は、レベル5らしい事をしたいです！」

ライア「ふ~ん。ねえねえ、例えばどんなん?」

祐「そうですねえ・・・中国を地震で完膚なきまでに壊したり、とか?」

リア「あらあら~。」

ライア「ちよ、ま、いやそれは色々とマズイっしょ・・・。」

祐「やつぱり・・・駄目、ですかね?」

ライア「一応あんたんと」、原作アニメ版の裏側で同時進行で動いてるつて設定があるし、原作ブレイクはやらない方が・・・」

祐「じゃあ、何しましょつか? う~ん・・・あ、そつだ。」

リア「あら～。」

ライア「また強烈に嫌な予感しかしないなあ～、この娘っ子は。」

祐「じゃ、一方通行を倒して来ましょ～。」

ライア「アウト～それは絶対にアウト～！原作ブレイクなんてヤワな表現じゃ済まないって実際！」

祐「え～・・・だつて、机上論の上なら勝てるつて、師岡先生言つましたし・・・」

ライア「それでもー、むしろ机上論だけに抑えてた方が『らしさ』つしょ！～？」

祐「でも・・・」

リア「あらあら～。でも、それぐらいやつた方が、祐ひやんじへて可愛いんじゃ無いから～？」

ライア「ちょ、リア！？」

祐「可愛いって、言つのは、ちよつと・・・と、ともかく、来年こそはレベル5らじに事をしますー。さつとー。」

リア「あらあら～。頑張つてね～？」

祐「はい！ それで、えーっと・・・最後は、リトさんですナビ～。」

リア「そうね～、私は～・・・つ～ん、考えて無かつたわ～・・・。」

ライア「考えて無いのかい！ と、ともかく何でも良いから言わないと！」

リア「そうね～・・・あ、そう言えば、デボエンペラーさんの所に出張に行く事があつて、その時に向こうの主人公のギュスター・ブさんと知り合つてね～？」

祐「ええ、あの人ですね。あの、何か色々なカードを具現化して戦つてる。あれってちょっと憧れますよね。」

ライア「そうねえ。正直、アタシん所ならそう言つ類いのVRMMとか探せば、案外出来るかもだけねー。」

リア「そのギュスター・ブさんが、凄くカッコ良くて～。」

祐「あれ、リアさん？ 何か顔、赤くなつてません？」

ライア「おー、ホントだホントだ。死体みたいに真っ白だから余計目立つね！」

リア「今度、ウチに来て貰いたいかな～、つて・・・。」

ライア「あんた、その人に惚れてるね？」

リア「ええ～、実は・・・。」

祐「（ゴクリ）」

リア「凄く・・・美味しそうだなって・・・」

ライア「そつち!?!? ああそつちか!! 何だビックリした、そつちい?! 全く、ホントに期待したアタシが馬鹿だつたよホント!」

リア「でも、凄く美味しそうなんですよ~? あの強い意志を感じる瞳とか、もう・・・」ゴクツ「

ライア「ほらほら、その涎拭いて拭いて! 一応女の子なんだから! で、それで? ジュラダンくんは競演の為のラブコールとかデボエンペさんにしてんの?」

祐「その誰でも長いと略すクセ、何とかしませんか?」

ライア「しーーなーーいーー。(ドヤーン)」

祐「・・・(スツ)」

ライア「やめて! 衝撃波は! 衝撃波だけはやめて!..」

リア「ジユラルミンダンボール君はそんなにアグレッシブな子じゃないですし、やってないみたいですよ~?」

ライア「へー。でも実際、アイツの執筆能力で人様のキャラクターを差し込む余地とかあるの?」

リア「番外編は先客が多いですからね~。洋ゲーとガンシューの。でも強引に開けてでも入れたいとは言つてましたけどね~?」

祐「何で洋ゲーとガンシューばっかりあんなに集めたんでしょうね。」

そのくせ、ギアーズオブウォーとかタイムクライシスとかはあります。
せんし。」

ライア「趣味なんじや無いのー？ アタシは興味無いからその話は乗らなーい。」

リア「あらー、そう言えばライアさんは第一回B.O.Bでアメリカの方に・・・」

ライア「ああんもうホンツト腹立つ！ 今思い出してもムカツクあのクソメリケン！！ 結局アイツがした事なんて単なる漁夫の利なのよー！？ 大半を殺したのはアタシなのにー キーー！」

祐「ライアさんが個人的感情をアメリカの方に持つているのは分かりましたけど・・・ゲームに罪は、ありませんからね？」

ライア「何よ！ あんただつてP4Aの主人公と名前がダダ被りのクセに！」

祐「な！ 下の名前だけですし、漢字も違いますよー！ ダダ被つてはいません！！ それに、名前の発表は私の方が先です！ あなたこそ、ライア総裁と名前モロ被りじやないですか！」

ライア「うつさいやい！ ジュラダンくんが決めた後に気付いた事を言つなー！」

リア「あらあらー。收拾が付かなくなつてきましたねー。それでは、この辺でー。えいつ！」

ライア「うたやー！？」

祐「あやあー？」

リア「……わてさて、一人はちやんと元の場所に戻れたでしょ
うし。それでは私もそろそろお暇させて貰いましょうか。では
また本編で。」

(後書き)

さてさて、こんな所で今回の漫談は終了とさせて頂きます。何か
「ございましたら、感想等を送りつけて頂けるとありがたいです。で
はまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9235z/>

主役三人組の今年の反省と来年に向けての抱負

2011年12月28日22時53分発行